

## 171013 名古屋城全体整備検討会議 24 回

整備室長：司会

西野所長：こんにちは。

足下の悪い中ご出席いただきありがとうございます

石垣部会の検討状況と天守閣部会の検討状況の報告

木造復元 大きな事業 大きな課題

このテーマで石垣部会・天守閣部会を頻繁に開催した

石垣・天守閣部会の構成員に出席いただき情報の共有を図りたい

整備室長：出席者の紹介

赤羽・麓・文化庁は欠席

総合事務所こうろ：保存活用計画について

保存活用計画の策定をもって全体整備計画は廃止

11 月 全体整備検討会議を計画。

12 月 市議会で委員会審議

1-2 月 パブコメ

3 月 策定・公表

質問なし

各部会の検討状況について

瀬口座長：情報を共有化したい

石垣部会の検討状況について

総合事務所：検討状況について報告

資料 2-1 議案と内容について 4 回開催

資料 2-4

資料 2-6

調査は 2-2、2-3

穴蔵石垣の背面や根石調査は立面図、カルテ作成後に検討すべきと意見

資料 2-5 学芸員体制について

資料 3 市長コメント

瀬口座長：資料 4 はあとにさせていただいてよいでしょうか

この段階でご質問ご意見がございましたら

丸山副座長：調査は最終的には何年度に報告書

総合事務所：本年度調査は来年度作る

丸山副座長：学芸員を2人増やすのは増やしていただきたいのだが、  
総合事務所の中で位置づけて欲しい

5人でも10にんでもよいが、組織をしっかりして欲しい

西野座長：適切に維持管理・整備するに当たり学芸員は大事  
教育委員会の協力で常時2名

今後さらに体制をしっかりして欲しい

千田：石垣部会の検討状況について

天守台石垣の史実調査について

石垣部会の中でも近代現代石垣だけではなく、名古屋城創建期からの検討が目的

近世初頭の資料を調べることは不可欠

学芸員の体制 とりあえず文化庁から許可を得るにはしっかりした体制を

それなくては現状変更が許可されない 最低限

すでに進めていただいております様々な調査 史実調査 古文書の知識を持っている人  
が不可欠

報告書の作成速やかに行っていく

学芸員体制 様々な分野の学芸員体制も不可欠

西野座長：史実調査にかかる調査 考古だけではなく文献の体制を組んでいくことは認識  
している

そのように体制を組もうとしている

高瀬：2・4にあるトレンチを来年2月までに行う

調査の目的を確認したい

総合事務所：天守台石垣の現状を把握するため

高瀬：基本的には地盤まで掘り下げるということか

総合事務所：基底の状況をしる

状況を見て先生方の意見

瀬口：どれくらい掘れば地盤がでるか想定しているのでしょうか。

いろいろ報告いただいた

今年度調査は来年度報告書をまとめる その段階でまとめていくと理解した

資料4 提言

北垣：石垣部会から提言をさせていただきたい

発掘調査のことを先に述べる

昼から小天守台中心とした発掘調査をお願いしている

現在3カ所調査をしている

本来ならば合同検討会に4つの部会の先生方にも一緒に見ていただくのが意義がある  
という思い

構成員の先生が大勢いらっしゃる

できたらこれからしていただく方が、「勝手に何をやっているんだ」それはやってはいけない

この文書は事前に配布して頂いたと思う

僭越な文書 他意あってのものではない

合計3人部会 結果的に私が提言の補足をさせていただきたい

実は平成14年から東側本丸搦手馬出検討委員会ができた

調査は異例の長さ いろいろな状況からそうなっている 現在継続

平成18年 全体整備検討会議の位置づけで石垣部会と改称

総合事務所 「木造天守」公式に提示されたのは今年5月

安土城同様、石垣内部の構造が残っている 2-6を見て驚いた

名古屋城のような特別史跡 指定文化財

現状変更という行為は法以外の目的から推進することはあり得ないことだと思っている

今回の「復元案」が、本質的価値を持つ天守閣石垣の遺構に直接関わりを持ってくる

石垣部会としては、文化財としての遺構の価値の検証

保護対策を講じる上で、最小限の考古学的調査が必要

現在調査を進めている

今後の活用に耐えるようか検証することも大きな一つ

ご承知のとおり、天守台そのものの石垣は各所で老朽化が進んでいるという認識

お手元の第1項「特性について」

第2項「実行すべき要件」

主体的に進めている調査、調査の中から得られる情報というものが、今後4つの部会で共有を図っていく必要があるのではないかと。

こういうような情報の整理が今後速やかに進んでいくと、次に老朽化する天守台石垣をどう保全していくかという課題が出てくるはずだ。

①②が今調査していること

それを踏まえて、できていない課題がある。

後半の①～⑤の内容 石垣部会で進めさせて頂かないと、客観的な事実が出てこない。

項目だけでも5項目、もっと増えるかもしれない。

本質的な価値を全国民、名古屋市民、当然市長さんも関心を持っていると思う。

石垣部会としては、第1第2で得られた課題を踏まえて、後半の①から⑤を

初めの①②で「それでよい」となればよいが、おそらく後半の①～⑤が必要となってくると思う。

瀬口座長：ご意見ご質問があれば

丸山副座長：大阪城 石垣が傷んでいる

- ・構造的に新しいものに変えないといけないもの

・歴史遺産として残そうというもの

検討中

石垣部会としてはどういう議論なのか

北垣：そういうことをもくろんで調査をやろうとしている

それがはっきりしないと、加藤清正の話の中で出てくる

近世の城郭の中でも名古屋城らしさ、最も優れたものを理解しているつもり

いろんな部分で劣化している状態 確認をしておくことが必要だと思っている

丸山副座長：調査機関が短いのでできるのか、と素人ながら心配

小浜：結果次第で実行すべき要件

これから天守を上に乗せていく

基礎工法どうするか検討しないといけない

今の状況と木造化の状況 上の建物が石垣に与える状況

そこらの影響を石垣部会としては対策できるのか

北垣：ちょっと触れているが、これは文化財だけの仕事ではない

わからない問題 ケーソンの上に建物が存在する問題

地盤工学 文化財として見る数少ない先生

言葉が足らずだったことを補足

我々がやっていることは、復元天守部会がなさっていることと一線を引いている

文化財として石垣をどう保全しているのかが第一

それがなければ提言させて頂いたことは全く意味をなさない

最終的に文化庁がどう判断するのは申し上げていない

石垣部会として考えられる立場から、前段の①②を通して、次の段階に行こうとするなら

①～⑤ 文化庁がどう回答するのは判断できない

小浜：歴史的な文化財の価値が第一

それを備えてから上をやれ、ということ

上をつくるため、何らかの方法を石垣部会から提案がないのか

宮武：石垣部会は、木造天守云々から始まった議論ではない

搦手石垣をどうするか、という部会からはじめた

宝暦年間から北側一帯で何度も積み替え

周辺部分も積み替え

築城段階から大ダメージ

すでに天守台自体に老朽化

昭和 30 年代によかれと思って天守台内部にコンクリートを注入し、あふれた

戦災後のむき出し石垣写真

日本の城郭建設の到達点が残っていた

本来価値を構成されていた石垣が取り払われた

もともとの石垣の価値を復旧させたい

完全に死んだのか、一部でも残っているのか

検証したあと、欠落しているものが①～⑤

その流れの中に、木造天守についてどうするか、という議論はなされていない

瀬口座長：石垣部会としては木造天守については考えていない、ということですね。

天守閣部会について説明を

総合事務所：天守閣部会の説明

資料 5-2 1 枚目 国宝指定時が復元時代として適切→宝暦の大改修後が適切

ガラス乾板 宝暦の大改修の姿

資料 5-5.6 未確定の情報が含まれているため傍聴者には渡していない

目標耐震 小天守 一部壁の一部を補強すればできる

柱をできる限り鉄にしないように

瀬口座長：天守閣部会の検討状況の説明

千田：天守を木造で復元していくための法的手続の状況を聞きたい

一般に、特別史跡なのでどうのように管理

保存管理計画にうたわれている

国の特別史跡 文化庁へ約束になっている

国民全体への約束

いずれの史跡・特別史跡 そこに示された保存活用計画

天守をもし木造で検討

文化財保護法等国の関連法規に従わなければ、現状変更できない

長い間現状を次の世代に伝えていくか

例えば知事・市長・町長が思いつきでやりたいと言っても、

きちんとした保存活用計画が必要

必要な調査を行って、本質的な価値を損なわないように

もとの保存管理計画を見ると、「鉄筋天守を活用していく」

木造天守は実行不可能

保存活用計画の書き換え 国民にこういうようにする手続は欠くことができない

名古屋城の本質的価値を生かす、顕在化するには、「木造化することが不可欠」

構造が望ましいといっても、手続が進まないのが懸念の 1 点

2 点目 いつの時点で復元するのか

大きな課題 宝暦大改修

個々の建物で検討するものではなく、不統一にならないように検討する

例えば宝暦修理後と国宝指定時は同じなのか大幅に違うのか  
本丸御殿の復元年代と同様なのか  
二の丸庭園 どこをどう戻していくのか 本質論  
天守の方のご議論として結論を出したのはわかったが、どういうものに戻すのか  
保存活用計画に明記すべき  
スタート地点に立てない  
名古屋市が一方的に保存活用計画に書けない  
文化庁と打ち合わせをしながら進めるべき  
不十分であるとすれば、早急に検討しないと  
せっかくご議論しても計画が進まないことを案じている

瀬口：原理原則的な発言

総合事務所：保存活用計画 全体整備計画は耐震改修

全体整備計画 保存活用計画を進めている

アンケートに基づいて、策定中のもの 文化庁とも検討中

全体整備計画は文化庁と検討している

時代の設定 全体としては江戸時代後期を仕様として考えている

宝暦大修理後 江戸時代中期に当たる

史跡全体との兼ね合い 天守としては大幅な改変がないものと理解

丸山：保存活用計画 これから作られる

復元建物は文化財ではない

50年たてば文化財

石垣は文化財

今の建物は石垣本質的な価値を損なわないように立つ

石垣が中心 天守は一般の人からすれば目立つが

質のよいものを作りたい

活用のこと 復元して、中身どう使うのかがほとんど出てきていない

本丸御殿 使っている

石垣部会と天守閣部会を密な連携を

熊本城 近代工法か伝統工法か

土台ができなければ上もできない

北垣座長からもお話頂いたように、年1回でもよいので情報の共有化が必要

各部会 事務局としてはつかんでいると思うが、

委員の先生に

活用計画 建物の復元ばかりで他はどうなっているか

天守閣の中身をどうするか

瀬口：文化庁の許可がでていない

宮武：ご懸念はそのとおり

保存活用計画 1回も提案がされていない

第6回報告 石垣部会ではそんなことはなかった

冒頭の資料 今後の予定

これから詰めていく

今度の3月策定 石垣部会は何か言えるのか

11月 各部会にも参考送付？

丸山先生大変重要な提言

現存の石垣

大正・軍部が積み直した石垣をどうするのか

本来活用計画案で議論してから 議論がない

地べた どのように盛り込んでいくのか

全体整備検討 コンスタントに詰めていっているのでは

西野所長：保存活用計画 平成27年から全体の保存活用計画 全体整備検討会議の中で進めてきた

木造復元について、どういう記載をしていくか

ご指摘いただいた指摘 原案を策定している

またあげて頂き、今日あげたスケジュールで進めていきたい

部会のご意見 全体整備検討会議でご意見

先生方の意見があれば事務局として受け止めて検討

総合事務所：補足説明

保存活用計画 天守閣部会 天守閣部分だけ抜粋して

瀬口：石垣 10年20年で全部やろうというのではなく、50年100年で

こうやりたいと思っても、財政上の問題でできない

市の方で方針を決めていく

宮武：そのとおり

この場で部会で

大きいのが「市長がコメントを正規に出した」

文化庁にも意見を出す

基本方針が、保存活用計画に盛り込んで欲しいこと

西野所長：検討する

千田：石垣の重要性も十分ご理解頂いた

市長の「石垣の重要さ」宣言した

共通の認識ができた

天守の木造復元 それに向けて

現在、特別史跡保存活用計画 100年後だけでなく、かなり綿密なものを書かないと行けない

名古屋城の保存活用計画 それは2-3年で書き換えるものではない

いわば憲法のようなもの 軽々に書き換えるものではない

名古屋城の本質的な価値 石垣が持っているものは大きい

どう保全し活用していくか 書き込んでいく必要がある

本質的な名古屋城の保存活用計画 石垣のことをかかないと行けない

改変を受けた石垣もある

石垣カルテを作るはじめた

石垣メンバーとしては資料1 来年3月策定とするのなら、石垣の基礎的調査もとりまとめていない

懸念がある

よりよいものを保存活用計画を出すのか検討して欲しい

瀬口座長：天守閣部会から提言を

小野：座長が瀬口 副座長なので資料6を説明する

石垣部会の報告もそれなりに受けて、丸山委員からも話があった

上の木造復元について取り組んできたのが現状

基本的には本質的価値を理解した上で、市が進める文化財の活用及び再建することによる課題

名古屋城については実測図など天守についての資料は豊か

木造復元の施策が出たもと

上に木造復元 本質的価値に影響を及ぼさないように

資料6の2 何を検討するのか、どういう課題があるのか

構造計画が重要 建物の余裕度 当初1.0→1.25にあげて頂いてほしい

建築基準法の枠組み 検討を続けている

石垣の保全と関わりがある

天守閣部会 北垣座長から報告があったように、本質的価値を保全することは承知

工事・調査でできるだけ影響を与えないように

③④史実に忠実な復元を図っていく 現状の法律の中ではパーフェクトにはいかない

避難路、バリアフリー

木造 最上階までフリーに上がれるエレベーター 史実に忠実 適切な接点を見つけないと行けない

現状ではこうした課題について、どこで最良な計画が策定できるか検討中

最初の復元 設定の中で検討を行っている

宮武：丸山先生おっしゃったとおり

石垣部会 天守台についての耐久性調査とすりあわせをしないといけない

③現況の天守台 耐震性

現況の天守台が相当痛めつけられている あるべきパーツがない、ではいけないところがでている

その上に木造天守閣を載せて持つかどうかの議論

あるべき石垣の議論 コンスタントにすりあわせをしないといけない

小野：天守閣部会の認識も同じ

構造計画 いろいろな工法 その中で石垣に対する負担は基本的にはかけないようにしている

具体的な検討はいろんな形で進めている

瀬口：他には

小浜：構造の問題 いざ復元となると、大変な金額がかかる

工費的には超高層建築

名古屋市の財産 綿密な構造計算をして頂きたい

石垣を含めて解析

現在の技術レベルを駆使して安全性

入力地震動

本丸御殿 名古屋市役所の免震と同様

復元と言っても補強、変更は可能

綿密に計画して頂きたい

小野：ありがとうございます。

時刻適応等解析

耐震補強を必要ならばやっていく

検討する技術レベルとしては日本を代表する ご心配頂かなくてもよい

高瀬：4つの部会の情報共有ができていない

全体整備検討会議 今日のはじめて石垣部会の報告を受けた

いままで情報共有ができていない

庭園部会もいれて、こういう会議を最低でも年1回でもしていただきたい

発掘が進んで、現場が見れるときに声をかけて頂きたい

現場が見ることができるよ 石垣部会行われるのでしょうから

瀬口：4つの部会全員集めると何人くらい？

総合事務所：25名

瀬口：現場を見せて欲しいという要望がある

千田：天守木造復元 構造計算、耐震

外から見ただけでなく中を見る

石垣部会のメンバーとしては、建物としての耐震性

穴蔵内面石垣の強度を担保していくのか 課題

避難経路を確保する 地下 内面石垣が崩壊したら避難経路が失われかねない

内面石垣に戻るのが本来だが、耐震性を高める新しい工法もあると聞いている

現状の石垣 見れば、堀に面したところ 鹿がつぶれるだけ

御殿側 本丸石垣 通路に面している お客様の安全性

木造にするしないにかかわらず、議論しないと行けない

西形：天守閣部会の石垣部会 かなりトーンが違いすぎる

石垣部会 天守閣部会の方が石垣明確にしていない

石垣の安定性 いかなる手段をとっても、パーフェクトな石垣はない

内側の石垣は「絶対崩せない石垣」

たとえ外側の石垣が崩れても、内側は崩せない

安定性を向上させる

それと、第三者への危害を与えないのは別の対策が必要だと個人的には思っている

せつかく石垣部会の提言が出てきたため、天守閣部会検討内容も明らかにしていく

その上でご意見

年に1回どころでは間に合わない

少なくとも天守閣部会と石垣部会が連携していかないと、天守閣を作るのは難しい

瀬口：認識の差

天守閣部会 安全性 文化財

石垣部会 安全性は考えていない まず調査

千田：全く違う 座長修正してもらいたい

現状が安全かどうかは、調査しないとわからない

イメージではだめ

調査して

発言を修正して下さい

瀬口：財源もあり、調査が終わらないとわからない といった

宮武：調査ではなく、「安全性を考えていない」という点は問題だ

瀬口：そうではない

千田：訂正して下さい

宮武：天守閣部会の部会長としての発言か

瀬口：認識のずれ

調査一線を引く

作ることを考えない

天守閣部会 作っていくときの安全性

北垣：いいですか

瀬口座長 われわれがお話がしようとしたことと全く逆

瀬口さんも以前も石垣委員だった

文化財として石垣の健全性を図ってきた

瀬口：石垣部会 石垣安全性は保全

北垣：文化財として

丸山：安全性はみんな考えている

千田：訂正されない おかしい

座長に聞いている

瀬口：私の理解はその通りです

撤回しない

丸山：密にやって頂いてちょっと

千田：きわめておかしい

協力を拒んでいるわけではない

丸山：この場では一致して

千田：いかに安全を高めるかは重要

「安全について考えていない」とは何事か

瀬口：そこだけとりだされても

千田：瀬口座長 撤回して欲しい

宮武：人命を無視してやるわけがない

瀬口：どこまで手をいれるか

木造天守の方は

千田：「なにも考えていない」訂正するのか

瀬口：木造を作るには石垣の安全性を考えないと行けない

そこまで石垣部会は議論していない

宮武：石垣部会が3人とも違うというのは、そのずれではない

小野：今の議論を聞いていると、言葉のあや 認識としては当然考えている

石垣部会としては、具体的にはどう対処するか答えられない

瀬口先生 「現段階では踏み込んでいない」

安全性を考えないで検討、というわけではない

われわれ天守閣部会は上に構造物を作る スタート

進行の違いと思う

私がとりまとめる必要がないが、当然の話

石垣 現状どうするか

熊本ではないが、壊れてしまつては文化財ではない

天守閣部会

瀬口：時間が来ました

西野座長：提言を頂いた

まずは石垣の現状調査実施、整理し今後どうしていくか  
天守閣建物 焼失前どのような形にしていくか

瀬口：最後混乱させて申し訳ございませんでした。